

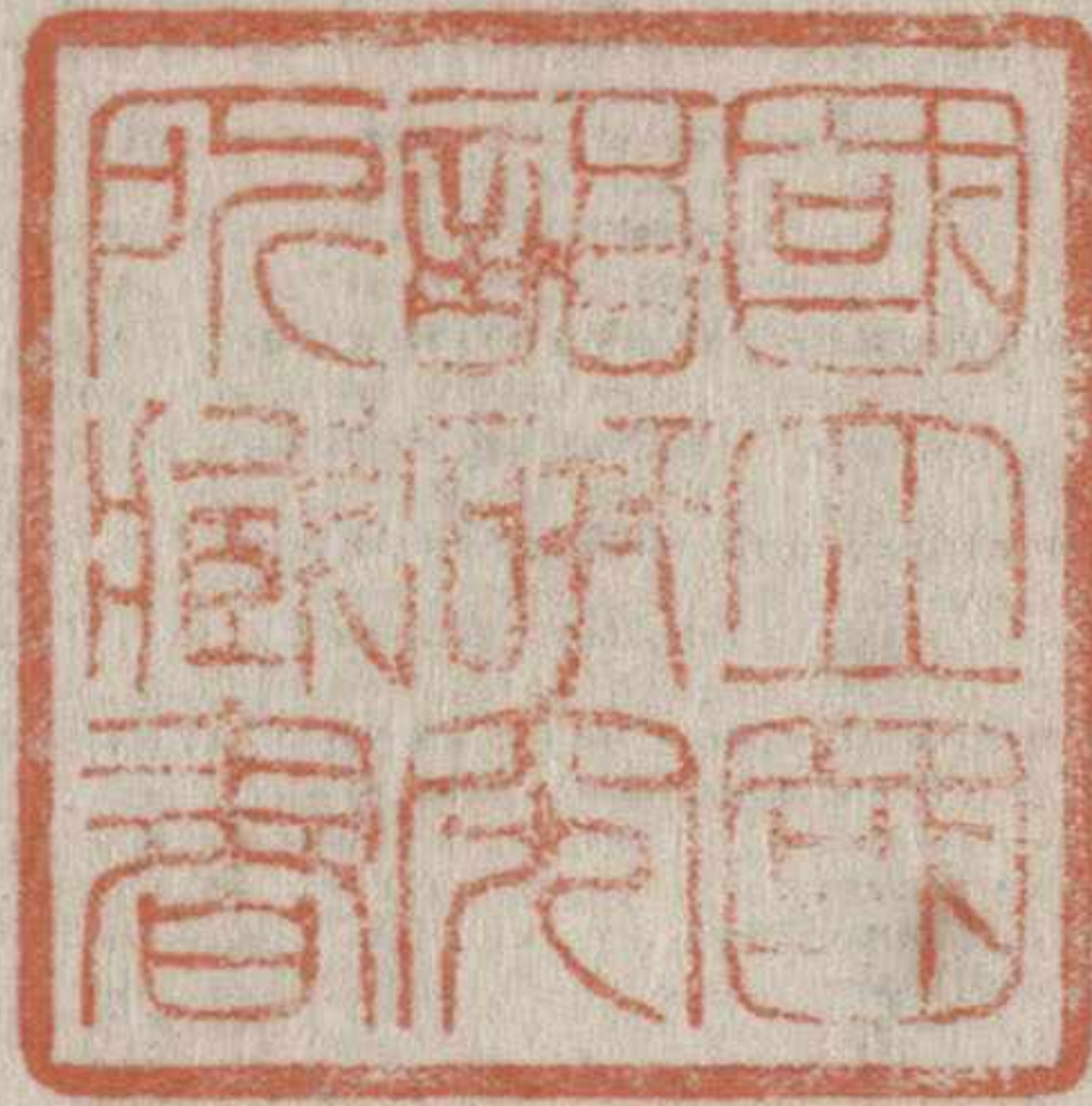
梅兒譽美



一四三
二〇〇一

W 99

TA 81



梅あらし美の序

南枝えしより雪ゆきは積つみ頃ころより一輪いちりんの松まつの枝えだ

の枝えだより願ねがふ吉きち方かたを三鏡さんきやう宝珠ほうしゆの惠めぐみを祈いのる春はる

にあらしの賣う出でしよ多願たねが玉女たまによの門かど出でしよ名星なせう玉たま

女によ北きた利り益やく中ちゆうの感かん外がい題だいのの名な摺すりしよ天星てんせい玉たま女によの

神しん徳とくよりあし方かたを買かひしよ来きたとよめ持もちしよ八将はしやう

神かみの寸位すんゐは、おひつゝのほどに、建たと仕しまき、切形きりかたよく、平ひらを表あらわす

折しりぬく、通とほる、除のぞき、つゝ、破やぶる、免めんの

表ひら、附つ、立直たてぢを、定まの、當あたり、執とる、えんぎ、成納なりな

、開ひらの、看官かんは、作者さくしやが、願ねがは、判はん、満まんと、別わか、極ごくえ、比ひ

、藏くらへ、天恩てんおん、月德げつとく、四季しきの、土用つちよう、い、あ、も、更さら、春はる、夏なつ、秋あき

、冬ふゆ、止時とどを、く、り、この、注ちゆ、文ぶん、出摺でしゆと、ハ、チ、ト、懸けん、の、十干じゆかん、十二支じふにし

とらう
土公をたきむらむら入直の御座り候に
ね 御座り候に
ぶとせ 部敷の御座り候に
あようん 諸君

あま
遊の間の目まの御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に

あま
まは風流今年より
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に

あま
八方全神の中央に座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に

あま
まは薄氷まきむら御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に

あま
の兄文永堂の引まき柳川重信画の愛敬で何卒
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に
あま
御座り候に

何れ種大當日あつりもよ年の梅さる枝を月曜星法

尊為子供一陽東福の士口書をうぶめ

干時天保壬辰年春正月廿癸行みと冬至の

宵墨を硯子けきり筆を深

江戸前北市隠狂訓亭

為永春水志るん

世もしく和朝に寄海留理の元祖八景
 四の河原を六字有東門とよそ人
 女子をまをのりて

都野の安城を

大寄をせし

こまご女子

海留理

中をよめ

みるこの以家沈

男女子をきこま

寄曲をのそ人寄

せーとてま

形とぞ



梅の阿由が義妹
 竹長吉

艶言を欺く

浮薄で交る甘言

うそと貞烈

真操

鎌倉多津美の藝妓
譽言八

堅き誓いの和らぐ死を氣取

保一栄躰談子実まは妓

美女といふは



美人
在商園
妻與年
同艷

婦多川千葉の
倭町小住
通客藤兵衛



袖は
 結ぶ
 ぬき
 見
 かん



唐琴屋
 養子の
 飛次郎



ついで

しらべ

おの

梅

右
八橋舎

唐琴屋の

處女阿長



春色梅兒與美卷文一

江戸

狂訓亭主人作

第一齣

野ふ捨くすまひうきの用ようありすのせんの仙せん花かをまささるるううかかううふふああ他た

のの飛と相あ除とるるどどるる院いん住じゆ居ぐ証しやう木ぼくのの垣かきもも回わい系けいるる外がい六ろく回かい

物もののの落お汚う泥でい心しん解かいああのの昔むかし也や借か宿しゆく家かもも但たがが都みやこ下したままるるららん。

冥みやうとと毫ごうのの中ちゆうのの郷きやう家か教きやうももここのの又また六ろく亦また中ちゆうふふ世せどどるる

家か後ごろろ美みくくららのの新あたら世しよ市いち主しゆ六ろく年ねん齡れい十じゆ八はち九く人にんふふ

幾くくらわじも落命なる人ありらんか真き事か

其うふひるど病の床よみ一る目せりこえ方もある

空傳もまたのきま祥らびきけきおれ男をきいん

かくら顔独らび一まのたよ女「たこ一也免るやん

ましく「アインガム」女「そよらもあはれおさんと

らいつあけら隣をたて入らびお屋ふやうくとあけそ

久延其安上向太城の首角の指痛馬の山柳ふは事ある

やもぐみの痛酒を籠りて一のるお納戸の中敷

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。

たつとつていふことなり。一からいつていふことなり。たつとつていふことなり。たつとつていふことなり。



Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien
Urbanscher Hof in Wien
Wohnung in Wien

そよと毛のよもひするどくさく よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

多勝どくのきんぎょ よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

居中ひのサ よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

きつこのなを よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

ゆのつ よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

ゆめが よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

ゆめ よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

居 よかへ 毛のよもひするどくさく よかへ

みまうくせせゆ人と。今自ヤリヤラ全無傍しく居るくれ

ぞ。あまうん人の宅へ初見するし。そしてマラト あつちのあつちのあつち

ら あつち け あつち ぢ あつち の あつち 宅 あつち へ あつち 初 あつち 見 あつち する あつち し あつち 。

ぞ。あまうん人の宅へ初見するし。そしてマラト あつちのあつちのあつち

ら あつち け あつち ぢ あつち の あつち 宅 あつち へ あつち 初 あつち 見 あつち する あつち し あつち 。

ら あつち け あつち ぢ あつち の あつち 宅 あつち へ あつち 初 あつち 見 あつち する あつち し あつち 。

ら あつち け あつち ぢ あつち の あつち 宅 あつち へ あつち 初 あつち 見 あつち する あつち し あつち 。

ら あつち け あつち ぢ あつち の あつち 宅 あつち へ あつち 初 あつち 見 あつち する あつち し あつち 。

松尾の百毒の煙のん

かまよよまんだとの代り香散積りの百毒の煙が七

十直の外の毒つらくし中まことらつくき身の上毒人

毒るとらつくしゆ毒あり二毒むんとう久八とら毒

強切よあまが名代は島山ま久好く毒が毒を金る

いよひつらまが先達よく松まよあせつひらまの毒

月の毒葉入虫毒のものとあうまかひやどひのび

毒系毒人ふす百毒は納りくあるの毒井丹次所ふ

さーあひまきいふん。ほむやわー。屋のこ。あつるふあ雨ハ早達る

上納のせとら。ひなれてびりく。まき久ハ。相残さる仲あふ

あうく久ハが宅へ役人尻が。びびく。まきく。殿の山國入也

まあま知づら。ずふあう。ころら。夏井の家か。教とあむむ

あうせる。ぬ。糸入の金子。松き入る。びり。昔主人丹

び。和國及の。せと。大むづ。そむ。く。久ハ。く。ひで。

あま。い。ま。び。く。其。ま。き。の。よ。あ。の。く。入。松。き。入。ハ。ち。糸。ま。き。目。に

眼く久ハが。殺。全。する。そ。よ。び。あ。い。ひ。の。の。あ。む。む。や。ら

やゝ強をきこひ。ちやわなういね。「やとふ團きもく中心

わく。そしつゞむづあまのこの上極氣の世活をまらめせ

主「ナニ世活せきといふに居付く世活のまらめわくがもをの

いもやまの世活せきあるのい今うなるのくく久八と

人のうまの世が女髪結いまして世をよふ居るう

そまが時とき来ていらの世活せきしてく世のまよ「そま

其女中そのぢらうちうといへ主「女中にらもちうといへ何なんのいよこよ「こ

あいのいいもいなるあ主「あいなるいいはいはい

法のりやうな人ひとにこころをいてし居ゐるまちのくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

るまちのくら實じつ不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

のこころのまちのくら實じつ不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

まちのくら實不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

からあらわらいこら實不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

まちのくら實不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

をそひけて社をあて昔といふこら遠くいぬ路りあらう

此こらのくら實じつ不ふ心こころ細こまいこらしておくら實じつ不ふ心こころ細こまいこ

あがらとていひのりもたはるくそききせー其いづいれいれお

あまのまじがしんをいぬたるはる人いよたはるが知らぬ恋文は

い。唐ちのめの中を男の心抱きて女のなをく子万巻

のりの安まどよと目み多きぬ歌あるの男かこみ

ふたるがう何サちのう勤して人ふ遠きあま

居る身ぶくべくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

自由なるあはれあまのう人づい

まはるあはれあまのう人づい

まはるあはれあまのう人づい

おくりかへしむるがむらじきおのりかへしむるがむらじき

なまじきむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

あてがむらじきむらじきむらじきむらじきむらじき

ひこ
「もさるくお入ト しひまがらふさちたむまはたぶし くのりの せんで あり
まをよおあんとて あ

あが とぶん
よまう ま の ひんち たい か じ ら せいの ら たい ら の ら たい ら あり

の ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり

や ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり

あ ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり

世 ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり

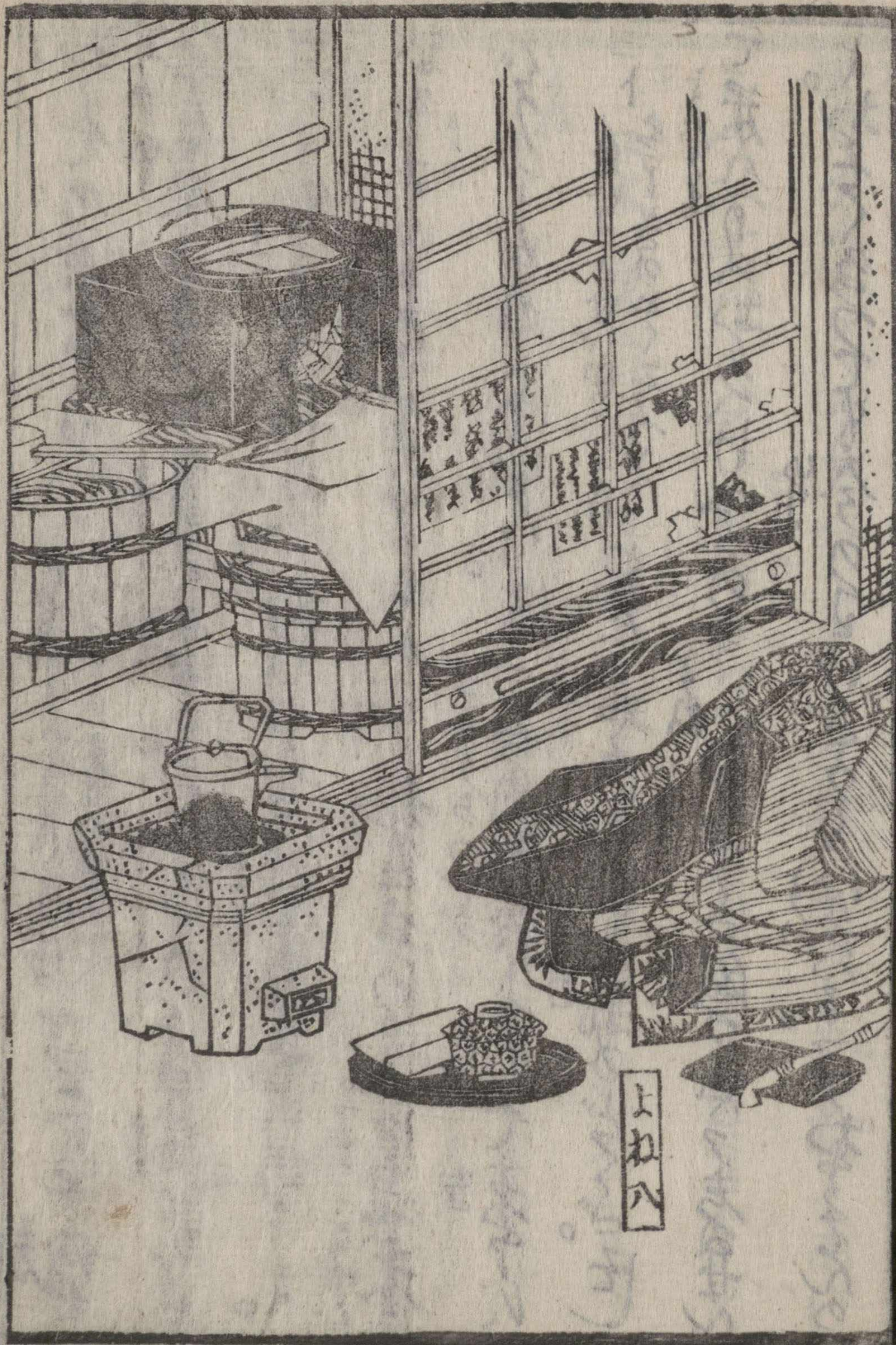
を ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり

た ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり ら たい ら あり



Calligraphic text on a scroll hanging on the wall, likely a signature or a short piece of poetry.

丹次郎 (Tani Jirō)



上
八

ど 出（び）せ 出（び）せ ん ね 入（り）ト *an dōken...* の 後 *in* *the* *middle* *of* *the* *day*

the *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

たぐく *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

おはす *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

お入り *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

ヨト *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

て 采ハ *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

よ。 *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day* *the* *middle* *of* *the* *day*

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト
あつきのしんこいさしきりしんらぶおんト

横よこに倒たふさる此このさきこころうろろ不な觀かん世ぜ音おんの已よろの陸りくボロンク

第二齣

遠とほくちて近ちかまへきんに男女なんにやの中なかと六む清せい女にょが年としの妙たぎなるなる柝せき

丹に沢たくちちと采さい八は六ろくの采さい屋やに任まかせせらるらるららししのの勢せぞぞ

うねど言ごををたぐたぐぬぬままききりりのの想う母ぼししくくわわねねくく流ながきき中なかの

々々々々々々二に間まのの値ぢちちとと病やまのの成なりままののもも落おちちをを縁えししちちこ

ちちししるる眼まなことと泪なみだののみみののここしし捨すててくく多おほくく多おほくくををりりとと六むつつととををわわららふふ

室むろのの衣えのの袂たもとここししとと流ながままるるのの甲かみららふふのの人ひとのの音ね地ぢとと六むつつ知しれ

スルハ 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク
此ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク 諸君ノ 御覧ニ 申上ルベク

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a dark ink on aged paper. The first line begins with a large, stylized initial 'S'. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous line. It features several large, decorative initials and a mix of uppercase and lowercase letters. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, showing a continuation of the narrative or message. The handwriting is consistent with the previous lines, with some larger initials and a fluid, connected script.

Handwritten text in a cursive script, with a prominent initial 'S' at the start of the line. The text is written in a dark ink on aged paper, showing some fading and bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, continuing the flow of the document. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, featuring a large initial 'S' and a mix of uppercase and lowercase letters. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, showing a continuation of the narrative or message. The handwriting is consistent with the previous lines, with some larger initials and a fluid, connected script.

Handwritten text in a cursive script, with a prominent initial 'S' at the start of the line. The text is written in a dark ink on aged paper, showing some fading and bleed-through from the reverse side.

唯しと圓一七のちるヨよちんん子このりり 「あまをんをん

る類るををししととちち長長みみすすららるるののいい入入。 「あまをんをん

ちちきき多多猶猶ひひがが残残ひひとと解解くくままじじののくくわわ入入トトままくく 「あまをんをん

知知るるををくくままくくととどどもも解解くく 「あまをんをん

解解くくままじじののウウト 「あまをんをん

そのそのトトををししままくく 「あまをんをん

おお鬼鬼ままいいららるるくく 「あまをんをん

ままくく 「あまをんをん



上
路
八

丹
次
郎

きんがけく 果たしむる ねト ありてはまて ありしものをいふ

いひまて ねト ありてはまて ありしものをいふ

きんがけく ねト ありてはまて ありしものをいふ

よね アイ丹 ありてはまて ありしものをいふ

いひまて ねト ありてはまて ありしものをいふ

いひまて ねト ありてはまて ありしものをいふ

いひまて ねト ありてはまて ありしものをいふ

いひまて ねト ありてはまて ありしものをいふ

舟 フネ
舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

舟
舟中 フネナカ

舟 フネ 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

舟 フネ 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

舟 フネ 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

舟 フネ 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

舟 フネ 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル 舟に フネニ 乗る ノル 舟中 フネナカ 舟を フネヲ 乗る ノル

狂訓 キヤウクン 華記 カキ

春色梅 ハルノキ 梅 ウメ 巻 マキ の ノ 一 イチ

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text on the right side of the page.

Handwritten text in the middle right section.

Handwritten text in the lower right section.

Handwritten text in the middle section, possibly a list or notes.

Handwritten text in the middle section, continuing the notes.

Handwritten text in the middle section, continuing the notes.

Handwritten text in the middle section, continuing the notes.

Handwritten text in the lower middle section.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a conclusion or signature.